

# 若葉会 アラカルト

## 「徳島がん市民セミナー」開催にあたって

第 3 回徳島がん市民セミナーの様子 詳細は <http://htcfund.jp> でもご覧になれます



2007 年から開催されている「徳島がん市民セミナー」の開催趣旨を述べたいと思います。

わが国における死亡率の第 1 位は、1981 年から「がん」です。そして「がん」罹患、死亡ともに増加の一途を示しています。これまで国の施策として、1984 年の対がん 10 ヶ年総合戦略(～1993 年)、1994 年のがん克服新 10 ヶ年戦略(～2003 年)、2004 年の第 3 次対がん 10 ヶ年総合戦略策定(～2013 年)、2005 年の健康フロンティア戦略策定(～2014 年)等、様々な形で「がん対策」が行われてきましたが、がん関係の法律に基づくものではありませんでした。一方米国では、約 30 数年前(1971 年 12 月)ニクソン大統領時代に成立しました「National Cancer Act」があります。米国ではこの法律に基づいて施策が行われています。日本では、2006 年に議員立法の形でがん対策基本法が成立し、2007 年 4 月から「がん対策基本法」が施行されました。同年 6 月、同法に基づく「がん対策推進基本計画」も策定されました。国から都道府県レベルへの通達がなされ、都道府県の取り組みがなされているところですが、その進捗状態は遅々としています。

このような背景の中、がん対策を行政のみに任せるのではなく、市民側からのがん対策をプッシュしようとの考えから、近藤彰院長を中心に、医療従事者、患者代表、徳島選出国會議員、マスコミ等の有志で、「徳島のがん治療をよくする市民の会」を立ち上げ、このがん市民セミナー開催を計画致しました。その後、2つの NPO 法人(「NPO 法人ホスピス徳島がん基金」、「NPO 法人徳島乳がんネットワーク」)がこのセミナーを主催し、徳島県医師会の後援の形として開催されております。

第 1 回のセミナーのテーマは「がん対策基本法の施行」「がん化学療法専門医(腫瘍内科医)」、第 2 回セミナーを「緩和ケア」とし、第 3 回セミナーでは「がんの早期発見・治療」を取り上げました。今後、このセミナーが継続され、セミナー開催の趣旨に沿って、少しでも「がん対策」に貢献できれば幸いであると考えております。

(徳島大学名誉教授 森本忠興)

\* 森本先生は本年 4 月 1 日より学校共済四国中央病院長として赴任されました。  
先生には 2 年間、木曜日に乳腺外来を担当していただきました。  
2013 年 4 月から再び当院にて乳腺を中心に診療をお願いしております。

## 徳島県におけるがん緩和ケア研修会について

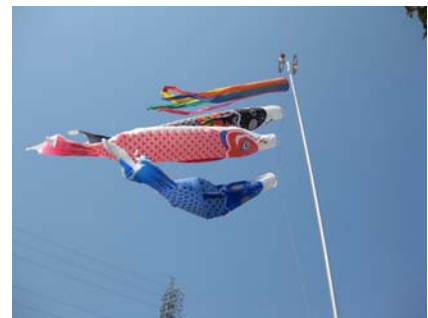
平成20年度の徳島県がん緩和ケア研修会の開始までの経緯と開催の状況、今後の見通しについて報告する。

平成18年に制定されたがん対策基本法に基づき、平成19年6月に緩和ケアについて取り組むべき施策として今後5年間「がん診療に携わる全ての医師を対象とした緩和ケアに関する研修の推進」が都道府県単位で図られることとなった。

まず、その準備として平成19年度緩和ケアの基本教育にかかる都道府県指導者研修会が10月13、14日に国立がんセンターで開催され、急遽、徳島県から3名(徳島大学准教授寺嶋吉保、徳島赤十字病院麻酔科部長郷 律子、近藤内科病院緩和ケア病棟長荒瀬友子)が参加した。徳島県は県医師会に「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」の事業を委託し、上記3名が核となって県健康増進課、がん診療連携拠点病院、医師会、その他県内の緩和ケア関係者が会合を持ち、平成20年度の緩和ケア研修会の実施に向け検討を重ねて、8月23、24日に第1回を徳島大学医学部で開催することとなった。当初は参加者が集まるだろうかという不安が強かったが、ふたを開けてみると希望者が多くて制限するまでになった。参加者は52名、プログラム構成は単位型の形式を取り第1回目は2日間連続で行い、以後は参加者の便宜を図って1日目と2日目を分けて行う方式となった。第2回緩和ケア研修会は10月19日、11月9日に徳島県立中央病院で行い、25名の参加を得た。第3回は12月7日、1月25日に徳島赤十字病院を会場として23名の参加を得た。参加者は20歳代から60歳以上まで各年代にわたり勤務施設もいろいろであったが、一般病院の50歳代の医師が最も多く参加し、今年度の研修終了者は99名であった。今年度の3回の緩和ケア研修会は徳島県主催で行われたが、平成21年度は3つのがん診療連携拠点病院主催と、県主催の計4回が予定されている。プログラムの内容は国で定められた標準プログラムにそって構成され、緩和ケア概論、療養場所の選択と地域連携、疼痛、その他の身体的症状、精神症状、コミュニケーション技術についての講義のみならずワークショップ、ロールプレイが盛り込まれた。また研修終了時に参加者のアンケートを実施し、満足度を5段階で評価して4以上という高い結果を得た。今後の診療に生かされることを期待する。

(ホスピス徳島緩和ケア病棟長 荒瀬友子)

近藤内科病院 緩和ケア病棟[ホスピス徳島]  
緩和ケアガーデンの様子



## 大腸ポリープ切除術のクリティカルパス導入について

クリティカルパスとは、患者様が入院中に受ける検査や手術、治療の予定、手術後のリハビリなどをわかりやすい絵文字などを使い表にまとめた「治療計画書」のことです。患者様に事前にお渡しして、説明することで入院から退院までの経過が理解しやすくなり、満足度も向上すると考えられています。

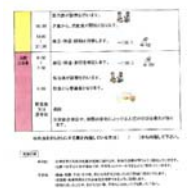
消化器内視鏡センター開設に伴い、大腸ポリープ切除術の件数も増えてきており、当院でも、看護業務の改善・ケアの標準化を行い、医療の質の向上を図るため、大腸ポリープ切除術のクリティカルパスを平成20年6月より導入しました。

その後、クリティカルパスが効果的であったかを知るために、大腸ポリープ切除術を受けられた患者様と急性期病棟看護師を対象にアンケートを実施しました。その結果、患者様からはほぼ満足が得られているとの結果でしたが、一部字が小さいや時系列にしてはどうかとの意見をいただきました。看護師からは、患者様にとって分かりにくいと思われる部分があるや、記載内容について充分理解が得られていない可能性があるなどの多彩な意見が聞かれ、問題点の改善を行いました。

今後も、クリティカルパスを検討して、更なる医療の質の向上を図り、患者様のニーズに従った適切な看護を提供していけるよう努めます。

最後になりましたが、アンケートにご協力していただいた患者様にお礼を申し上げます。

(内科一般病棟看護師 東・野田・松浦・森下)



クリティカルパス



## 嗜好調査結果の検討

### 彩り食



栄養部では食事の改善・向上のために毎年1回嗜好調査を行っています。これまでの嗜好調査では主に、料理の温度が冷たい、ご飯が硬い、味付けが薄い、量が多い、などが問題となってきました。とくに料理の温度が冷たいという意見が多く、その改善策として調理後もできるだけ温度を保てるよう保温食器を利用したり、茶碗や汁碗はあらかじめ温めておくこととしました。またお汁などはできるだけ配膳直前に盛り付けるようにしました。ご飯が硬いという意見に関しては、水加減を多くしやわらかく炊くように気をつけました。さらにやわらかめの食事がよい方にはお釜のなかでもやわらかいところをとるようにしました。味付けが薄いという意見は塩分制限のある患者様から多く聞かれました。患者様に塩分制限について説明し、薄味に慣れてもらえるよう努力しました。食事の量については個人差が大きいので、一人一人によく聞き取りを行い、食事量を全量・半量・1/4 と幅広く対応するようにしました。献立では和食や果物に人気がありました。

今年度もまた嗜好調査を行いました。全体的に満足しているという結果でした。とくに食事の味付けや硬さについては8割以上の方が満足しているとの結果であり、これまでの改善策が結果に現れたと考えられます。温度についても以前に比べてちょうどよいと答える方が多かったです。副菜に関してはまだ冷たいとの意見もあり今後まだ改善していく必要があります。食事の量も多くの方が満足していましたが、食欲のない方の中には量が多く感じる人もいました。他に月に一度くらいパン食を食べたいとの意見があり、現在検討しています。

これらの結果をもとに今後も患者様によりよい食事が提供できるよう努力していきたいと思えます。(栄養部 管理栄養士 宇坂菜摘)

## コンシェルジュ業務について

みなさんは“コンシェルジュ”という言葉を目にしたことがありますか？ 耳にしたことはあっても一体何をする人なのかよく分からないという人も多いと思います。当院でのコンシェルジュとは、患者サービスのことで主に、案内(入院案内、健診案内)や、エスコート(車椅子の方、視覚・聴覚障害者の方)、待合いの状況把握等の業務を行っています。いつも笑顔で丁寧な対応を心がけています。受付の横には、常に1人のコンシェルジュがおり、席を外している時以外は待合室に気を配り、目を配って外来全体がスムーズに流れるように調整(1診、2診の振り分け)、及び状況把握も行っています。例えば、胃が痛いといった患者さんは消化器科の医師へ、糖尿病の治療を受けたいといった患者さんは糖尿病専門の医師へというようにその人に応じた医師へ回すようにしています。

また時折、苦痛症状の強い方がいないか待合室をラウンドしたり、定期的に声をかけ様子をうかがっています。外来が落ち着いている時は雑誌の整理整頓も行い、環境整備にも心がけています。

今はまだ、病院全体を把握し、総合案内役としてまだまだ勉強不足です。これからコンシェルジュの仕事を徹底し、よりよいサービスを提供し患者さんに満足して頂けるよう頑張りたいと思えます。そして、患者さんに何を質問されてもすぐ的確な対応ができる一流ホテルのようなコンシェルジュを目指して努力していきます。

(事務部 コンシェルジュ 中村美和)

近藤内科病院 1階 外来



## インシデント・アクシデントレポートの有効活用について

平成 20 年 12 月 9 日、近藤内科病院にて毎月定例で行われている勉強会がありました。この時、デイサービスセンターわかばが発表に取り上げた題材が「インシデント・アクシデントレポートの有効活用について」でした。

インシデント・アクシデントとは「事件・事故」を意味します。デイサービス内でも転倒、接触事故、利用者様とのトラブルなど何らかの問題が発生することがあります。これらの問題が再発しないように業務終了後、職員間で対策を話し合います。特に生命に係わる危険性の高い問題等にはレポート報告書の提出を義務付け記録に残していました。

しかし慣れるにつれ最近では話し合いはされるもののレポート記録が書き残されていない事が多々見られ、レポートの存在が薄れて問題対策が曖昧になっている現状がありました。今回この勉強会発表をきっかけにレポート活用に改めて着目し、業務改善をしていく目標を立てました。まず行ったのがレポート用紙の簡略化と提出枚数の向上です。実施後、微調整はありましたが枚数は徐々に増え、問題発生傾向を分析する資料集めになりました。また以前に比べ職員間での問題に対する取り組み意識も高まり、枚数向上のみならず意識改革のきっかけ作りにもなりました。

この取り組みは勉強会以降も継続中です。今後も利用者の皆様にとってデイサービスセンターわかばが問題なく安心して過ごして頂ける場所になるようアイデアを出していきます。

(デイサービスセンターわかば 介護職員 猪熊憲一)

デイサービスセンターわかばの様子



## Information

### ●健康教室のお知らせ

6月の健康教室

6月11日(木) 14:30～「認知症の原因と治療について」近藤内科病院3階カンファレンスルームにて

7月の健康教室

7月18日(土) 12:30～「糖尿病の食事」1階カフェコーナーにて ※食事代 600円

8月の健康教室

8月22日(土) 12:30～「高脂血症の食事」1階カフェコーナーにて ※食事代 600円

\*参加を希望される方は近藤内科病院1階受付またはお電話(088-663-0020)にてお申し込みください。

### ●第4回徳島がん市民セミナー

下記の通り第4回徳島がん市民セミナーを開催いたします。参加費は無料です。皆様是非ご参加ください。

事前の申し込み等は必要ありません。

日時:平成21年9月27日(日)10時より

場所:ホテルクレメント徳島にて

内容:ホスピス・緩和ケア

講師:滋賀県立成人病センター 緩和ケア科 主任部長 堀 泰祐 先生

六甲病院 緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー 沼野 尚美 先生

### ●行事予定

6月16日(火) フルート・ピアノコンサート 近藤内科病院1階 緩和ケアラウンジにて 14:00～

7月25日(土) 夏祭り デイサービスセンターわかばにて

8月21日(金) 勝浦川健康花火大会

9月27日(日) 徳島がん市民セミナー ホテルクレメントにて 10:00～

10月3日(土) ホスピス緩和ケア週間前夜祭 近藤内科病院1階 緩和ケアガーデンにて 15:00～

ホスピス緩和ケア週間 in Tokushima パネル展

皆様からのご意見をお待ちしております

わかば通信に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

本広報誌をより良くするために皆様からの率直なご意見をお寄せ下さい。

【近藤内科病院 広報委員会】